



「食品ロス」



今回は、「食品ロス」のお話です。

食品ロスとは本来食べられるのにも関わらず捨てられてしまう食べ物のことです。

日本では令和4年度に約472万トンの食品ロス（家庭から約236万トン、事業者から約236万トン）が発生したと推計されています。

外出先などでは、つい美味しいものをたくさん食べてくなってしまうますが「食べきれずに残ってしまったもの」は、どうしていますか？

日々の生活から、食品ロスを減らす工夫をしてみましょう。

【私たちにできること】

- 飲食店で食事をするとき
どうしても食べきれない場合は、持ち帰ることで食品ロスにつながります。
- 買い物するとき
買い物の前に冷蔵庫の中の在庫を確認したり、食材を買いすぎないようにしましょう。
- 調理するとき
調理のときは、食べられる分だけ作るようにしましょう。



関連 URL 環境省 食品ロスポータルサイト <https://www.env.go.jp/recycle/foodloss/>

認知症地域支援推進員のつづき No.81 春になると…

春になると、私たちの生活や環境が大きく変わることがあります。子どもが巣立ったり、仕事の都合で住むところが変わったり。家庭内の変化ももちろんですが、春先になると体調にも変化が出てきたりします。それでも私たちはなんとかその変化に対応して、暮らすことができている。でも年を重ねるごとに最近はどうも環境に対応できず、体調を崩したり新しいことが覚えられないことが増えてきているな…と私自身感じています。私達でも大変なのに、もの忘れの病気があればなおさら、毎日の暮らしの中で大変さが増してくるのではないかと感じます。それでも周囲の人が何かが変わったら教えてくれたり、ついでの時に声をかけてくれるだけで、安心してこれまでの暮らしを続けていくことができます。お互いに気かけ声をかけながら暮らせる町、お互いに支え合って暮らせる町になっていくと良いなと思っています。

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

- 利根町地域包括支援センター ☎ 6 8 - 2 2 1 1
- 利根町保健福祉センター ☎ 6 8 - 8 2 9 1
- 複合福祉施設 響 ☎ 6 1 - 8 5 0 0
- 介護老人保健施設もえぎ野 ☎ 8 4 - 6 0 8 1

地域おこし協力隊通信



田井隊長

地域おこし協力隊発表会と座談会、初めてのイベントながら30名近くの地域住民の方にご参加いただきました。ご参加、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。皆さまからの貴重なご意見を頂いたこと、普段会えない方々と意見交換の機会を頂いたこと、大変嬉しく思っております。大変ご好評いただきましたので、ぜひ2回目の開催も視野に入れていきたいと思っております。今後も皆さまと共にスポーツを通じて、住みよい利根町を築いていけるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

イベントでは多くの方々といろいろな意見やアイデアを話し合うことができ、とても有意義な時間となりました。ワークショップでの話し合いの中で参加者からスポーツ・健康に関連する意見やアイデアもいただいたので、今後の活動の中で形にしていければと思います。町民の方々にこれまでの活動報告ができたのも良かったです。引き続き「スポーツまちづくりコーディネーター」として利根町に暮らすみんなが心身ともに良好な状態「wellbeing（ウェルビーイング）」になるような活動をしていきますのでよろしくお願いします。



稲垣隊長



藤田隊員

初めてお会いする町の方々からも直接色んなお話を聞かせて頂いたのがとても嬉しかったです。利根町の課題として、少子高齢化、外国人との共生、空き家問題などが提起される中で、ネガティブな問題意識としてでなく、皆さまが前向きに解決策を模索されている様子が伝わりました。座談会を通じて、すぐには解決しないことも、声を上げることや、隣人の意見を知ることが重要だと感じました。今後もまたこういったイベントを企画したり、私自身も町の集まりにどんどん参加してみようと思いました。

座談会に参加された方、ご協力頂いた方、ありがとうございました。現在、空き家に関する活動を行っている中で、シルバー世代の方と接する機会が多いですが、今回、色々な世代の方と接することで、大変有意義な会となりました。座談会の中で利根町に対する課題が多く見受けられましたが、それだけ利根町を思う気持ちや、熱量が伝わってきたのと同時に、私たちに対する期待も大きいと実感しています。私たち自身にできることは現状は微弱かも知れませんが、利根町を良くするためのエネルギーとして今後も活動できればと考えております。



安藤隊員